

<p>演題名</p>	<p>公共育成牧場におけるニホンジカ被害の推計と 牧場活性化のための課題</p>		
<p>発表者 氏名</p>	<p>松井宏枝</p>	<p>所属</p>	<p>伊那家畜保健衛生所</p>
<p>管内のA公共育成牧場において、近年栄養状態の著しい低下を確認したことから、開牧時24月齢以下の乳用育成牛について、過去5年間のDGを算出。2004～2006年の3年間に比べ、2007年は-0.03kg、2008年は0.03kgと著しく低下。原因として牛の栄養摂取量の不足、ニホンジカの採食による牧養力の低下が考えられた。A牧場の利用可能草量、放牧牛の総食草量、ニホンジカの食草量・生息頭数を既報データをもとに推計。A牧場ではニホンジカの増加により、放牧牛とニホンジカとが食草量で競合を引き起こしていると推定。また、放牧頭数の減少がニホンジカ生息数の更なる増加を招き、農林業を始め地域全体に被害を与えると考察。公共育成牧場の活性化のためには、放牧牛の発育・衛生管理、牧養力の調査など牧場の適正な維持管理、ニホンジカ食害の検証、およびニホンジカの被害対策が課題。</p>			